

令和4年度「地域活性化推進研究プロジェクト」成果報告書

研究プロジェクト名	紀南地区における映像制作を通じたエスノグラフィ研究		
研究代表者氏名	木川剛志	所属部局名	観光学部
研究メンバー名	岸上光克	所属部局名	食農総合研究教育センター
当初計画に対する目標達成率	80%	研究プロジェクトの終了時期	令和5年3月
予算配分総額	500,000円	経費使用総額	円(担当課で記入)

【研究プロジェクト事業の成果】※具体的に記入してください

和歌山県の今後の発展を考える和歌山大学のミッションを鑑み、和歌山県の持つ問題の根底を理解するために、和歌山の近代史を掘り起こすことが本研究の大きな目的である。そのために紀南地区のこれまでの歩みをストーリーとして抽出するために、文字としての歴史には記載されてこなかった、当時の人々の生きた歴史を記録した。本研究の特徴は、映像として記録するだけでなく、そこにある歴史の流れを、人々の生活とともに読み解くことに意味があり、記録は記録として留めず、広く和歌山の人たちに共有しようとする、にある。

最終的な成果は後述するが、本研究は二つの理由によって大幅に開始が遅れた。これまでの研究の状況から、本研究では放送業界と同等の取材、インタビューにおけるコンプライアンスを確保を予定していたが、審査の過程で「紀南地区の衰退には空襲や災害の影響が強く影響を与えているので、そのインタビューには侵襲もしくは軽微な侵襲が伴われることが想定される」とされ研究倫理審査が開始の条件となった。迅速審査を要望したが映像制作を手法とした研究についての審査はこれまでになかったので正式な審査となり、そのために研究開始が大幅に遅れた(10月24日に審査により研究開始の許可を得た)。これにより当初予定の夏季休暇の研究調査を行うことはできなくなり、2022年の秋以降の新型コロナウイルス拡大、いわゆる第8波の影響もあって実際の研究調査は年をまたいでからになった。

実際のフィールドワーク・撮影は遅れたが予備調査を早い目に行うことによって、合計5名インタビューを行うことができた。1.白浜町の明治以降の観光地化の過程、2.日置の空襲とその復興の過程、3.串本地区の自衛隊と遠洋漁業の関係、4.夏山温泉の成立とこれから、5.戦争によるアメリカ移民の帰国、200海里水域設定による那智勝浦の廃船の影響、である。1と2については文献との整合を行い、朝日新聞における記事、テレビ和歌山での番組としての制作を行なった。またこれ以外にも撮影を伴わないインタビューを多数行なった。



白浜町日置地区でのインタビュー



新宮市三輪崎の交流施設



新宮市三輪崎の商店街

【当初計画段階との対比】※上記目標達成率を判断した理由等

本研究では、紀南地区の歴史記述には記載されないのであろう、人々の生活視点から見た歴史と町との関係をオーラルヒストリーを映像記述によって抽出し、それを広く公開することであった。前段の成果で述べたように、研究開始が大幅に遅れ、そのために公開の部分においては実際に対面で上映会を行うところまでは進まなかった。この点によって達成度は低く判断した。しかし、実際に紀南地区におもむき、インタビューを重ねることで、想定を超えた重要な歴史の証言を記録することができた。この点を合わせて、80%の達成率と判断した。

【今後の展望等】

○ 研究プロジェクトの発展性（根拠に基づき記入）

紀南地区におけるオーラル・ヒストリーについては、研究開始以前に想定したものよりも興味深いものであった。それは第二次世界大戦前後の社会変容、また産業構造の変化、それらの歴史の流れに翻弄される市井の人々がいた。研究期間の最後の方で、公には知らせずにこっそりと運営されている銭湯で80代の男性と話をすることになった。彼の家は祖父の代でアメリカで漁業として財を成したが、第二次世界大戦の際に財産が接収され、戦後日本に引き上げてきた。その後、マグロ業に従事したが200海里水域設定により廃船なども経験した男性である。この男性は偶然出会い、偶然の撮影となったが、今後、このような個人のオーラルヒストリーによって紀南地区を読み解くことを企画している。

○ 外部資金等への申請実績及び今後の予定

申請実績

①科学研究費助成事業 基盤研究(C) ②令和5年度 ③5,000千円(3年)

②大成建設自然・歴史環境基金 ②令和5年度 ③650千円(1年)

③2022年度 韓昌祐・哲文化財団助成 ②令和4年度③1,500千円(1年)

本研究に関連する申請としては以上の3点が挙げられるが、残念ながら採択には至らなかった。

○ 学内外における成果の活用（予定も含む）

2022年度の研究において収録した映像は一部を除いて、研究としての永続使用としてのアーカイブとしての使用の許諾をいただいている。これらについては今後、和歌山大学に共用可能なアーカイブとして保存可能か模索を行なっていく。また、現在、論文として日本オーラル・ヒストリー学会への投稿を計画中であり、このような論文としての公表、また朝日新聞の連載、テレビ和歌山での番組提供の形によって、社会において活用可能な研究成果と共有していく。

○ 成果の地域社会への活用（予定も含む）

本研究の計画段階から想定していたように、本研究の成果は学術研究の場としてだけではなく、アウトリーチとして一般紙やテレビ放送に活用していく。実際、予備調査の段階（研究倫理審査の結果が出る前にすでに進めていた調査）において2本の映像を学生とともに制作し、それはテレビ和歌山において5分番組として上映され、本研究によって1本のテレビ番組としてまとめて、新聞記事2本として成果としている。これらは地域社会への還元と考える。

○ その他特筆すべき事項

【成果の外部公表の方法及び時期】

テレビ和歌山 6waka イブニングにて、3月20日放送

朝日新聞和歌山版 ウラマチぶらり 本研究に関連して、2本（白浜町日置、三輪崎）

日本オーラル・ヒストリー学会 2023年11月10日から12日発表予定

映像祭「地方の時代」 2023年6月応募予定

東京ドキュメンタリー映画祭 2023年6月応募予定

※研究プロジェクトの内容・成果等がわかるポンチ絵（写真・挿絵など）や関係資料を添付してください。

経費等使用調査								
配分額	500,000	円	支出額	500,000	円	残額	0	円
経費別内訳対比表								
区 分	配分額				支出額			
	内容	員数	単価 (円)	金額 (円)	内容	員数	単価 (円)	金額 (円)
人件費								
	計							
備品費					ハードディスク		108,500	108,500
	計							
運営費	旅費	25	15000	230,000	旅費			142,179
	旅費	3	10000	30,000	撮影消耗品			264,278
	撮影消耗品			100,000	ソフトウェア			93,543
	上映会費用			40,000				
				108,500				
	計			500,000				500,000
合 計			500,000				500,000	